

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 22 年度 第 4 回経営学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 平成 23 年 2 月 17 日（木）午後 4 時～午後 6 時
- II. 場所 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：／大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長、佐藤修委員、安田英土委員、大野富彦委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 第 3 回委員会で宿題とされた「学士力の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデル例示」について 2 名の委員より以下の案が提示された。これは、次の 4 つの到達目標のうち、【到達目標 1】および【到達目標 2】【到達目標 4】を統合した効果的授業モデルである。

【到達目標 1】企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。

【到達目標 2】企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。

【到達目標 3】経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。

【到達目標 4】企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。

●委員から提案のあった到達目標 1 の開発モデル案については、以下のような要望が出された。開発モデル案は半期 15 回で終了することを前提にした授業計画（シラバス）という視点に囚われずに、むしろ在学期間全体を学びの場と考えるような長いスパンで考えてほしい。また成績評価だけでなく、学びの結果としてのアウトカムを広く社会に発信し社会の変革のための学びに繋げていけるような工夫をしてほしい。場合によっては、大学間さらには大学コンソーシアム方式でのミニプレゼンコンテストや企業家を交えた意見交換を視野にいたれた開発モデル案を工夫してほしい。授業のねらいの個所で記載されている当事者意識については、この当事者意識をどのように持たせるかについてのデザインを考えてほしい。

●到達目標に関する確認として、【到達目標 1】からスタートして【到達目標 4】まで段階的に進むだけでなく、【到達目標 4】から【到達目標 1】に戻ることも十分にありえる。【到達目標 1】【到達目標 2】【到達目標 3】【到達目標 4】はすべて連動していて、相互に行き来しながら学びを深めていくことにならざるを得ないことを確認した。

●委員から提案のあった【到達目標 2】【到達目標 3】の統合を目指した開発モデル案については、以下のような質問や要望が出された。学生の最終提案として事業計画書を作成する場合に、組織の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できるという【到達目標 2】をどのように担保していくかという質問に対しては、グループメンバーそれぞれが特定の

分野(会計・人的資源・戦略など)についての知識を有していることから、相互に学びあうことを通じて組織の全体的な仕組みを理解していくという仕組みであることが確認された。また経営理論の講義や有用性についての記述があるが、経営理論の範囲の広さや相反する経営理論も存在することから注意が必要であることの指摘もあった。

2. 以上の議論をもとに、2つの授業モデル案を修正し2月末までに提出することになった。

#### V. 今後の予定

●2月末までに修正されたA委員とB委員が授業モデル案を修正し協会に提出する。その後ミーリングリスト内で議論を行った後、必要であれば4月に打ち合わせ会という形式で最終調整を行う。その後、当該授業モデル案に対する意見やコメントをアンケート形式で集めることが予定されている。